

プログラムNo.	コース名	各概要	開催日程	プログラム内容	ユニット	募集対象	定員数	募集要項
								共通概要
HOS消化管1	軸保持短縮を意識した大腸挿入	トレーナーは参加者に軸保持短縮法による大腸内視鏡挿入法を指導し、参加者が大腸モデルを用いて5分以内の盲腸への挿入を会得することを目的とする。	11月6日(金) 午後	大腸モデルを用いた大腸内視鏡指導 ・軸保持短縮法による大腸内視鏡挿入法 ・5分以内の盲腸への挿入	4ユニット	初級～中級者	25人(うち海外5人)	大腸内視鏡検査において、患者にとって苦痛の少ない挿入を行うためには、腸管の過剰な伸展を避け、効率よく盲腸まで到達する技術が求められます。その鍵となるのが「軸保持短縮法」を意識した挿入技術です。本ハンズオンセッションでは、初学者から中級レベルの内視鏡医を対象に、コロンモデルを用いた実践的なトレーニングを行います。実際の現場で応用可能な軸保持短縮の基本的な操作を、経験豊富なトレーナーが丁寧に指導します。技術の習得には時間を要しますが、体系的な理論と実践の両面から学ぶことが、スキル向上への近道です。なお、本セッションは海外からの参加者も歓迎しています。国際的な視点で学び合える貴重な機会ですので、ぜひ奮ってご応募ください。皆様のご参加が、内視鏡診療・技術の質の向上につながるものと確信しております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。
			11月7日(土) 午前		4ユニット	初級～中級者	25人(うち海外5人)	
HOS胆膵1	超音波内視鏡：描出からFNAまで	参加者は、前半・後半でEUS描出モデルとEUS-FNAの指導を受け、その基本操作の習得を目的とする。	11月6日(金) 午前	ConvexEUSの描出とFNAの基本操作の学習 ①EUS描出モデル ②EUS-FNA用ファントム	4ユニット 描出とEUS-FNAで2ユニットずつ分けて使用	EUSシステムを有している施設の医師限定	24人(海外枠4)	EUSとERCPは、胆膵領域の内視鏡診断・治療に欠かせないモダリティですが、施設間の成績の違いが残されているのが現状です。EUS-FNAで良い成績を得るには、Convex EUSによる病変の描出を不安なく行うことが前提であり、それによりEUS-FNAも安全、確実に可能となります。EUS-FNAの先には経皮性膵液ドレナージ、胆道ドレナージなどinterventional EUSといった手技があります。また、ERCPでは、胆管挿管とESTを確実に行うことで、その後の多岐にわたる胆道診断と治療が初めて可能になります。EUSのセッションでは、描出用・EUS-FNA用ファントムを用意し、Convex EUSの標準的描出のための考え方やコツを学びながら、さらにEUS-FNAの手技まで経験していただきます。一方、ERCPのセッションでは、通常の直視鏡とは異なる後方斜視鏡の挿入から始まり、胆管挿管、EST、胆管ステント留置まで行える、新しいファントムを用意し、実際の手技の流れを経験していただきます。ともに、専門施設の診療現場で第一線として手技だけでなく、若手の教育も積極的に行っている経験豊富な先生方にインストラクターをお願いしています。マンツーマンで指導を受けることができるだけでなく、学会場では聞けない、教科書にも載っていない、ちょっとしたTipsやPitfallsを聞いたり、普段困っている点なども気軽に質問をすることができる、大変貴重な機会です。病院には器材は揃っているが自身の経験が少ない、自信がない若手の先生から、独学でやってきたがステップアップしたい先生まで、広く参加していただきたいと思えます。本ハンズオンセミナーの翌日から自信を持ってEUSやERCPに臨んでいただけるように、インストラクター一同、懇切丁寧に指導いたしますので、是非とも、多くの先生方の積極的なご応募をお待ちしております。
HOS胆膵2	ERCP：ESTからステント留置・結石治療まで	参加者は、前半・後半で胆管挿管から乳頭処置、ステント留置の一連の手技と胆管結石治療の指導を受け、ERCPの基本手技の習得を目的とする。	11月6日(金) 午後	ERCPの基本手技の学習 ①胆管挿管+EST+胆管ステント留置 ②胆管結石治療	4ユニット 胆管ステント留置と胆管結石治療で2ユニットずつ分けて使用		24人(海外枠4)	
HOS肝臓1	腹部超音波の基本操作と描出、MASLD診断の脂肪定量と肝硬度測定、ここまで見える微細血流の描出、アプレーションをやってみよう	腹部超音波検査の基本操作から、MASLD診断のための脂肪定量と肝硬度測定、最新の超音波技術による微細血流の描出、そしてアプレーションまで、体験、習得する。	11月5日(木) 午後	① 腹部超音波：基本と実践 ② MASLD診断の脂肪定量と肝硬度測定 (FibroScan/エラストグラフィ) ③ ここまで見える！微細血流イメージング ④ アプレーションの基本手技 ファイロスキャンの体験実習を含む	4ユニット + ミニステージ	初級者～中級者	25名	腹部超音波機器を用いたスクリーニング検査および肝生検、肝腫瘍の穿刺および焼灼療法手技の実習習得を目指したハンズオンセミナーを開催します。今回は特に、MASLD(代謝機能障害関連脂肪性肝疾患)診断に必要な脂肪定量と肝硬度測定、そして最新の超音波技術による微細血流の描出についても学びます。個別ブースでは前半は主に腹部超音波スクリーニングと脂肪定量・肝硬度測定を、後半では超音波機器を用いたエコーガイドドランジオ波焼灼療法を実践します。また、ミニステージではミニレクチャー・実演ライブも同時に開催。学びたい内容に合わせて自由に選択いただけます。今までなんとなく腹部エコーは苦手と思っていた方、超音波スクリーニングを身につけたい方、MASLD診断のための新しい評価法を習得したい方、大歓迎です。合計4ブースで各ブース2名の指導者により、レベルに合わせてしっかり学べます。ぜひ受講ください。ご応募をお待ちしています。
			11月6日(金) 午前	① 腹部超音波：基本と実践 ② 肝穿刺・焼灼のやり方と注意点 ③ 肝腫瘍生検の標本取り扱いの注意点と病理所見の読み方 ④ MASLD診断のための脂肪量・肝硬度測定 ファイロスキャンの体験実習を含む	4ユニット + ミニステージ	初級者～中級者	25名	
HOS外科1	ベーシックコース	初級者(外科を志す研修医、一部専攻医)向けのプログラム ①腸管手縫い吻合/結紮・縫合 ②腹腔鏡下胆嚢摘出術	11月7日(土) 午前	9:00-11:45 ① 腸管手縫い吻合/結紮・縫合 ② 腹腔鏡下胆嚢摘出術 A班(前半①→後半②)とB班(前半②→後半①)に分けて両方のセミナーを受ける。	4ユニット 手縫い吻合と腹腔鏡下胆嚢摘出術とユニット分けて使用	初級者	20名(海外枠0)	【共通概要】 器械吻合が主流となった現在では経験することが少なくなったとはいえ、手縫い吻合/結紮・縫合は外科手術の基本です。また初めて執刀する機会となることが多い腹腔鏡下胆嚢摘出術についてしっかり理解していますか？きちんと勉強したいと思っているものの、臨床の現場では、標準的な技術を勉強する時間や練習の機会が限られているのではないですか。一方、腹腔鏡下の側方リンパ節郭清や結腸の体腔内吻合の手技を導入したいが、コツやビットフォールがわからないので導入に躊躇している施設もあるのではないですか。 本ハンズオンセミナーではこれらの幅広い要望に応えるべく、初級者を対象としたベーシックコースと、中級者を対象としたアドバンスコースを企画しました。ベーシックコースでは、現在経験することが少なくなったとはいえ外科手術の基本である手縫い吻合/結紮・縫合を、またドライボックスを用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術の基礎とコツを中心に学んでいただけます。アドバンスコースでは、直腸領域の腹腔鏡下手術のエキスパートによる指導のもと、側方リンパ節郭清モデルを用いた側方郭清術および結腸の体腔内吻合を経験していただきます。多くの方々にご参加いただき、本プログラムが手術手技の理解と技術の向上に少しでも寄与できれば幸いです。ご参加を願います。どうぞよろしく御願い申し上げます。
HOS外科2	アドバンスコース	①結腸体腔内吻合 60分(講義15分、実技45分) ドライボックスと腸管モデルを用いた体腔内吻合の講習 ②腹腔鏡下側方リンパ節郭清術 105分(講義15分、実技90分) 骨盤モデルを用いた腹腔鏡下側方リンパ節郭清術の講習	11月7日(土) 午後	14:00-15:00 結腸体腔内吻合 15:00-16:45 腹腔鏡下側方リンパ節郭清術	4ユニット	中級者	10名(海外枠1-2)	【外科コース設定】 1. 参加希望のプログラム (HOS外科1またはHOS外科2) 2. 生年月日 3. 施設所在地(県) 4. 日本消化器外科学会専門医の有無【共通概要】